

令和7年度

「運営に関する計画」
(最終評価)



いまみや小中一貫校

大阪市立今宮学校・大阪市立新今宮小学校

令和8年3月

いまみや小中一貫校 大阪市立新今宮小学校・大阪市立今宮中学校
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成27年4月に3小学校と1中学校の統合を行い、大阪市で三番目の施設一体型小中一貫校として開校し11年目を迎える。開校当初の様々な課題を教職員が協力して解決しながら小中一貫教育を推進してきた。今後もその特長を継続・発展させていくためのさらなる工夫が必要である。

本校は、西成区北東部にあり、社会的な課題に直面している地域にある。経済状況の悪化や家庭背景により、生活が厳しい子ども達も多いが、その中であって、子ども達は逞しく生きている。家庭においては、「生活していくこと」を重視せざるを得ず、学習を最優先にする家庭が多いと言える状況にはない。それらの理由などにより、基本的な生活習慣が身につけていない子どもや様々な社会経験・体験が乏しい子どもが多い。また、校区外からの転入する児童生徒や外国籍の児童生徒の転入も多く、保護者と連絡が取りにくい家庭や通訳者を必要とする家庭との連携にも課題を抱えている。

施設一体型小中一貫校としての特長を最大限発揮できる状況を創り、子ども達に生きること、学ぶこと、体験することを十分に保障することが本校の当面の課題である。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○毎年度末の校内調査において、不登校児童生徒の割合を、毎年、前年度よりも減少させる。

(令和3年度：5.3% 令和4年度：7.5%) →**令和7年度 3.6%**

○令和7年度の児童生徒アンケート「自分にはよいところはあると思いますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、令和4年度よりそれぞれ5%増加させる。

(令和4年度：小学校87% 中学校77%) →**令和7年 ㊦ 92.0% ㊧ 93.7%**

○毎年度の児童生徒アンケート「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、前年度より増加させる。

(令和4年度の自校アンケートは無いが、全国学力・学習状況調査の結果：小学校6年73%、中学校3年70%) →**令和7年 ㊦ 86.4%、㊧ 74.8%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査における、「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目について、「全くしない」と答える児童・生徒の割合を小中学校とも10%以下にする

(令和4年度：小学校22% 中学校19%) →**令和7年 ㊦ 24.4%、㊧ 17.0%**

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、半数の項目で全国平均を上回る。

→**令和7年 ㊦ 男子1つ 女子6つ ㊧ 男子4つ 女子1つ**

※小中どちらも全部で8項目中の結果

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の児童生徒アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える割合を小学校 75%、中学校 75%以上とする。

(令和4年度：小学校 56% 中学校 57%) →**令和7年** 小 73.3%、中 79.2%

○令和7年度において、ゆとりの日については週1回以上設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては3日以上設定する。

(令和4年度 ゆとりの日週1回 学校閉庁日夏季3日 夏季以外1日)

→**令和7年 ゆとりの日週1回 学校閉庁日夏季4日 冬季3日**

○令和7年度の児童生徒アンケートで「読書は好きですか」の項目について肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 80%、中学校 60%以上とする。

(令和4年度：小学校 82% 中学校 54%) →**令和7年** 小 75.7%、中 71.8%

○令和7年度の保護者アンケート「学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合 95%以上とする。

(令和4年度：91%) →**令和7年 95.9%**

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度末の校内調査において、不登校児童生徒の割合を、前年度よりも減少させる。
（令和6年度 6.0%）→**令和7年度 3.6%**
- 令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を小学校93%、中学校94%以上にする。
（令和6年度 小学校92.1% 中学校93.2%）→**令和7年 小 92.0% 中 93.7%**
- 令和7年度の児童生徒アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校82%、中学校84%以上とする。
（令和6年度 小学校81.6% 中学校83.3%）→**令和7年 小 85.1% 中 88.6%**
- 令和7年度の児童生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学生83%、中学生78%以上とする。
（令和6年度のアンケートは無いが、全国学力・学習状況調査の結果は令和6年度小学校6年生が82.1%、中学校3年生が77.1%）→**令和7年 小 86.4%、中 74.8%**
- 小中合同行事を年間15回以上行い、小中学校の連携強化を図り、令和7年度の児童生徒アンケート「いろいろな学年と交流するのは楽しい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学校86%、中学校88%以上とする。
（令和6年度 小学校85.7% 中学校87.7%）→**令和7年 小 82.6% 中 84.8%**
- また、相互授業参観や研修など小中学校教職員の交流も活発化させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「思う」と答える児童・生徒の割合を小学校90%、中学校93%以上にする。
（令和6年度 小学校89.8% 中学校92.4%）→**令和7年 小 92.2% 中 93.8%**
- 小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
（令和6年度→**令和7年度**
国語 小学校4年生 0.86→**0.94** 小学校5年生 0.86→**0.94** 小学校6年生 0.76→**0.96**
算数 小学校4年生 0.96→**0.96** 小学校5年生 0.89→**0.96** 小学校6年生 0.88→**0.95**
国語 中学校1年生 0.86→**0.84** 中学校2年生 0.88→**0.94**
数学 中学校1年生 1.02→**0.87** 中学校2年生 1.01→**0.94**)
- 令和7年度の児童生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童・生徒の割合を小学校75%、中学校59%以上にする。
（令和6年度 小学校74.0% 中学校58.84%）→**令和7年 小 85.8% 中 72.6%**

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。※委員会が3月に出す資料より

(令和6年度 小学校0.6%中学校2.3%) →令和7年 小 12.1% 中 22.6%

○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（時間外勤務が1か月45時間を超えない）を満たす教職員の割合を小学校80%、中学校44%以上とする。※12月末現在

(令和6年度 小学校79.2%、中学校43.3%) →令和7年 小 82.8% 中 36.7%

○令和7年度の保護者アンケート「学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えていく」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上とする。

(令和6年度 94.4%) →令和7年 95.9%

【安全・安心な教育の推進】

不登校児童・生徒の割合は、前年度より減少しており、中学校生活指導主事と小学校生活指導主任を中心に、小中連携して取り組んできただけでなく、西成区サポーターや生活指導支援員、スクールソーシャルワーカーなど、教職員が一丸となって積極的に課題をつかみ対応してきた。今後も継続する。

また、児童生徒アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」の値も、中学校では 93%を超えている。この値からは、小中一貫校だからこその行事を児童生徒が共に楽しめるという本校の特色も一因であると考えられる。

児童生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の値は、小中共に目標を上回っている。小学校では、他校では感じる事ができない中学生の姿勢を見て育ち、本校が小中一貫校であるために、9年間、さらにはその先への将来の見通しを持ちやすい環境が一因ではないかと考えられる。

今後は、これらのよりよい環境を大切にすると共に、小中一貫校9年間のまとまりを大切にしていける必要があると考えられる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

友だちとの話し合い活動では、肯定的な回答が小学校 92.2%、中学校 93.8%であり、前年度より上回った。これは、話し合い活動において昨年度に引き続き、各教科・担任が「話し合い」の時間を適宜設定してきた成果だと思われる。児童生徒同士が対面での活動時間が増やせたことと、児童・生徒が安心して意見を出し合う環境であるということなども言える。

また、英語教育において、今年度も中学校英語教諭・小学校担任・C-NET が連携を取り、小中一貫校の特性を生かし児童生徒の実態に応じた指導が継続して行われている。

体力・運動面に関しては、小学校の5年生から入部できる部活動や広い運動場で遊ぶことなどができるため、それらの環境要因もあると言える。また来年度の時間割の改定では、中学生も運動場で遊べる時間を確保し、運動に親しめる環境を築いていく予定である。健康教育については、中学校では生活委員会、小学校では健康委員会が毎週一回、はんかち・はなかみ・爪切りを確認し啓発を行っていることで、健康についての意識を高められるようにしている。

【学びを支える教育環境の充実】

昨年度以上に学習者用端末を活用する頻度は高まってきている。しかし、日々の学習の中で、端末に不具合があったり、学習の準備片付けまでの時間に手間がかかったりすることで使用頻度を控えてしまい、毎日学習者用端末が活用されているわけではない。教科の特性や取組内容に合わせて、必要かつ効果的に活用しているという実態がある。

また、今年度も1日に複数回、学校ホームページを更新している。ホームページのアクセス数については、今年度はシステムの更新により、総アクセス数は不明ではあるが、令和6年度までは3年連続で40,000件を達成することができている。来年度、目標数値を上げていきたい。紙媒体では、今年度は、昨年度の159部より増加している。

いまみや小中一貫校 大阪市立新今宮小学校・大阪市立今宮中学校
令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○令和7年度末の校内調査において、不登校児童生徒の割合を、前年度よりも減少させる。(令和6年度 6.0%)</p> <p>○令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童・生徒の割合を小学校93%、中学校94%以上にする。(令和6年度 小学校92.1% 中学校93.2%)</p> <p>○令和7年度の児童生徒アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校82%、中学校84%以上とする。(令和6年度 小学校81.6% 中学校83.3%)</p> <p>○令和7年度の児童生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」に対して、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学生83%、中学生78%以上とする。(令和6年度のアンケートは無いが、全国学力・学習状況調査の結果は令和6年度小学校6年生が82.1%、中学校3年生が77.1%)</p> <p>○小中合同行事を年間15回以上行い、小中学校の連携強化を図り、令和7年度の児童生徒アンケート「いろいろな学年と交流するのは楽しい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学校86%、中学校88%以上とする。(令和6年度 小学校85.7% 中学校87.7%)</p> <p>また、相互授業参観や研修など小中学校教職員の交流も活発化させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>長期欠席児童生徒（欠席日数30日以上）について調査を行い、状況を把握し、児童生徒への教育相談など日常生活状況も踏まえた取組を実施する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月、全校児童生徒のスクリーニングシートを作成し、個別の状況については、教育支援シート、生活支援シートなどを作成する。 ・定期的また必要に応じて教育相談を実施し、継続して児童生徒の心のケアに努める。 ・校内全体で、年間10回児童生徒の状況についてのスクリーニング会議Ⅰを実施する。また、必要に応じて関係教職員、スクールカウンセラー、西成区こどもサポートネット関係者によるスクリーニング会議Ⅱを学期に1回は実施する。 ・年間30日以上欠席した児童生徒の人数を前年度よりも減少させる。 ・年間30日以上欠席した児童生徒に対応するための校内体制の構築を図る。 	

<p>取組内容②【1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>小中学校の連携強化を図ることで、児童生徒の安心感の伸長に努める。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中合同行事を年間 15 回以上行い、小中学校の連携強化を図り、令和 7 年度の児童生徒アンケート「いろいろな学年と交流するのは楽しい」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を、小学校 86%、中学校 88%以上とする。 (令和 6 年度 小学校 85.7% 中学校 87.7%) 	B
<p>取組内容③【2 豊かな心の育成】</p> <p>人権教育や道徳教育のカリキュラムを作成し、計画的に学習を実施する。また、文化的行事や体験活動を通して自己肯定感の向上を図る。</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権学習や道徳の年間指導計画をもとに、計画的に学習を実施する。 ・令和 7 年度の児童生徒アンケートにおける「命や人権の大切さやルールについて学ぶ機会がある。」の項目について、肯定的に答える児童生徒の割合を小学校 94%、中学校 97%以上とする。 (令和 6 年度 小学校 93.5% 中学校 96.6%) ・令和 7 年度の児童生徒アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童生徒の割合を、小学校 82%、中学校 84%以上とする。 (令和 6 年度 小学校 81.6% 中学校 83.3%) ・様々な人権課題や近年の新たな人権の状況に応じて、教職員の研修会を年 1 回以上実施する。 	B
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任が中心となり、毎月児童・生徒の現状についてのスクリーニングシートを作成し、そのシートをもとにスクリーニング会議Ⅰで報告した。この会議で、指導内容や共通理解事項など情報を共有した。また、学期の初めと終わりは全教職員で共通理解を図った。 また、学期に 1 回、関係教職員、スクールカウンセラー、西成区こどもサポートネット関係者によるスクリーニング会議Ⅱを行った。 ・毎月スクールライフノートによるいじめアンケートを実施し、学期の初めには、担任を中心に、生徒一人ひとりに教育相談を実施した。その中で、生徒の悩みや相談事、生活面などの状況把握に努め、トラブルなどが把握できた場合には、その解決に向けて取り組んだ。 ・今年度 2 学期の不登校児童・生徒は、中学校 19 名・小学校 1 名（昨年度中学校 22 名・小学校 1 名）であった。担任や学年の教師、生徒指導主事やサポーターなど様々な立場の大人が、長期欠席の生徒などに対して積極的に家庭訪問や家庭連絡などを行い、登校に向けての支援を行った。 ・令和 5 年度より学習ルームを開設し、不登校の児童・生徒一人ひとりに合わせた居場所づくりに取り組んだ。 ・スクールカウンセラーと連携し、児童・生徒の居場所づくりに努めた。 	

取組内容②【1 安全・安心な教育の推進】

合同朝会(7回)、IMAMIYA スポーツフェスティバル(小中合同練習7回、本番1回)、始業式・終業式(各3回)、など、計画的に合同学校行事を行ってきた。小中合同プール水泳授業では、7年生と低学年、9年生と高学年で行った。8年生と中学年では計画はしていたが、暑さの関係で実施できなかった。また、5・6年生の中学校文化祭「どんぐり祭」への参加、9年生が小学生に万博の情報をクイズ形式で伝えたり、8年生と1年生と一緒に凧揚げを行ったり、7年生と4年生がスポーツ大会を行い、さらに教職員は、夏休み中学生勉強会に小学校教員が参加など、教職員が積極的に小中連携に取り組んでいた。

これらの活動を通じて、令和7年度の児童生徒アンケート「いろいろな学年と交流するのは楽しい」の値は、小学校82.6%、中学校84.8%(令和6年度:小学校85.7% 中学校87.7%)と小学校も中学校も目標数値を上回ることはできなかった。小学校は低学年89.2%、高学年76.2%と高学年の値が低かった。中学校は7年生88.9%、8年生80.6%、9年生84.4%と8・9年生の値が低かった。

取組内容③【2 豊かな心の育成】

- ・人権学習や道徳の年間指導計画をもとに、計画的に学習を実施することができた。
- ・令和7年度の児童生徒アンケートにおける「命や人権の大切さや社会のルールについて学んでいる。」の項目について、肯定的に答えた児童生徒の割合は小学校96.1%、中学校96.4%であった。小学校は年度当初の目標を上回り、中学校も概ね目標を達成した。

(令和6年度 小学校93.5% 中学校96.6%)

- ・令和7年度の児童生徒アンケートにおける「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校85.1%、中学校88.6%であり、どちらも年度当初の目標を大きく上回った。

(令和6年度 小学校81.6% 中学校83.3%)

- ・教職員の研修会を年度当初に1回実施した。

次年度への改善点

取組内容①【1 安全・安心な教育の推進】

- ・学習ルームを利用することで学校に登校ができていない生徒も多く、運用自体はうまくいっている。しかし学習ルーム担当職員と担任との間で情報共有が図れていない場合が多く、学校全体としての共通理解を深めて不登校生に対応していく必要がある。

また学習ルームの利用者数が増えてきたこともあり、生徒一人ひとりの実情に合わせた支援を考えていく必要がある。

取組内容②【1 安全・安心な教育の推進】

児童生徒アンケートにおける「いろいろな学年と交流するのは楽しい」の項目に対して、肯定的な回答が下回ったことについては、小学校高学年との交流の機会が少なかったことや、8年生と1年生との凧揚げの交流が、アンケート実施後の3学期に行っていたことが考えられる。次年度の交流は、どの学年も時期や取り組み内容を考え、実施することが望ましい。また、今年度の小中交流から課題を見つめなおし、さらに交流が進められるよう企画運営していけるようにしたい。

取組内容③【2 豊かな心の育成】

- ・アンケート実施時に、学習活動を積み重ねた自信や、様々な行事や異学年交流の場で感じた達成感・自己有用感を想起できるような声かけを継続して実施していく。
- ・今後も教職員の人権意識を高めたり、日々の人権教育活動に活かしたりするために、教職員研修を実施し、研鑽を積んでいく。

いまみや小中一貫校 大阪市立新今宮小学校・大阪市立今宮中学校
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「思う」と答える児童・生徒の割合を小学校90%、中学校93%以上にする。 (令和6年度 小学校89.8% 中学校92.4%)</p> <p>○小学校学力経年調査・中学校チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (令和6年度 国語 小学校4年生 0.86 小学校5年生 0.86 小学校6年生 0.76 算数 小学校4年生 0.96 小学校5年生 0.89 小学校6年生 0.88 国語 中学校1年生 0.86 中学校2年生 0.88 数学 中学校1年生 1.02 中学校2年生 1.01)</p> <p>○令和7年度の児童生徒アンケートにおける「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を答える児童・生徒の割合を小学校75%、中学校59%以上にする。(令和6年度 小学校74.0% 中学校58.8%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末でドリル学習をするなどの取り組みを通して、個々の習熟度やニーズに応じた学力向上に取り組む。 ・グループ学習を活用し、主体的・対話的な授業づくりに努める ・少人数・習熟度別授業を活用し、基礎学力の定着を図る。 ・すべての児童・生徒が視写に取り組み、書く力の向上に努める。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「思う」と答える児童・生徒の割合を小学校90%、中学校93%以上にする。 (令和6年度 小学校89.8% 中学校92.4%) ・小学校学力経年調査・中学生チャレンジテストにおける国語および算数・数学の平均正答率の対全国比・対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 (令和6年度 国語 小学校4年生 0.86 小学校5年生 0.86 小学校6年生 0.76 算数 小学校4年生 0.96 小学校5年生 0.89 小学校6年生 0.88 	B

<p>国語 中学校1年生 0.86 中学校2年生 0.88 数学 中学校1年生 1.02 中学校2年生 1.01)</p> <p>・令和7年度小学校学力経年調査における国語科記述問題の無答率を令和6年度より減少させる。 (令和6年度 小学校3年 15.1% 小学校4年 13.3% 小学校5年生 16.7%)</p>	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部の活動の活性化やなわとび集会・かけ足集会や体育的行事などでの取り組みを充実させ、運動に親しむ機会を増やす。 ・小学校健康委員会や中学校健康給食委員会を中心に、「健康に気をつけて生活をする」ことの大切さについて、日常的に呼びかける。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の児童生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童・生徒の割合を小学校75%、中学校59%以上にする。 (令和6年度 小学校74.0% 中学校58.8%) 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>令和7年度の児童生徒アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な回答した児童・生徒の割合は小学校92.2%、中学校93.8%であった。(令和6年度：小学校89.8% 中学校92.4%) 小学校・中学校ともに目標数値を上回った。昨年度に引き続き、授業での話し合い活動においてグループ学習を活用し、主体的・対話的な授業づくりに努めたことや、今年度新たに Canva や Teams のホワイトボード機能の活用し、お互いの意見を出し合える場が増えたことがこの結果につながったと考えられる。</p> <p>次に小学校学力経年調査及び中学生チャレンジテスト（7・8年生）の結果については、現時点では返却されていないため達成状況は不明である。小学校では、少人数習熟度別授業を展開し、基礎学力の向上に努めた。9年生の結果については、国語の平均正答率の対府比0.94と前年度より0.06上昇、数学は対府比1.04と前年度より0.03上昇といずれも目標を達成した。</p> <p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「運動に親しむ機会」について <p>指標では、児童生徒アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と答える児童・生徒の割合を小学校75%、中学校59%以上にするとした。児童生徒アンケートの結果より小学校が75.9%、中学校が58.8%となった。その一因としてまず考えられるのは、備品の充実や研究教科として教職員が教材研究に取り組んでいるからと考えられる。児童がどのような活動を行ったら体を動かすことが心地よく思い、技能を身に付けさせることができるのかを考えた結果だと思う。中学校においては、生徒自身も持っている運動に対しての苦手を覆すことができなかつたと考える。</p> <p>次に運動クラブの活動が一層活性化されたことである。小中一貫校の特性を生かした小学生の運動部への参加も定着し、小学校から部活に参加している生徒の活躍が、運動の習慣化に繋がり、各部での成績向上にもつながっていると考える。</p>	

他にも、体育科における授業の活性化である。小学校では、中学校の体育科教諭が、その専門性を生かしながら補助的な役割を担い、授業の活性化を図っている。1学期の学習単元は主に「陸上領域」と「水泳領域」であったが、児童の学習意欲も高まり、体力や技能面において向上が見られた。また、中学校においても技能面を重視した授業実践が行われ、各自が記録向上に向けた学習を行ってきた。このことは、時間短縮を図りながら半日開催した「いまみやスポーツフェスティバル」にも大きな効果をもたらし、徒競走やリレーなどの競技に意欲的に取り組みながら運動に親しむ姿が見られた。また、競技の練習段階においても、学年の枠を超えた交流を図ることができ、体力の向上とともに小中の連携にもつながっている。さらに、今年度もプール学習において小中連携を図り、「いまみやスポーツフェスティバル」での縦割りグループを活用した、合同水泳も実施した。これらのことから、体育科の授業を核とし、体育的行事や小中交流行事などを進め、楽しみながら運動に親しむ取り組みが効果をもたらしたものと考えられる。

さらに、小学校では体育的行事の充実に取り組んだ。業間を活用し、体育的な活動を昨年度よりも多く取り入れてきている。11月にはなわとび集会、1月にはかけあし集会を昨年度より多くの回数に取り組んだ。児童が楽しく技能を身に付けられるようにリズムなわとびを実施した。かけあし集会においては、準備運動でダンスを取り入れたものを実施した。一方、中学校では、12月に9年生が、2月と3月には7・8年生が球技大会を行い、スポーツを通じて学年内交流を図る予定である。特に7年生においては、小中一緒に「イマイリンピック」行った。さらに、冬場での体力向上をねらいにして体育の授業に持久走を取り入れている。生徒の意欲を高めるために、結果を下駄箱に掲示を行った。

・「健康に気をつけて生活する」に関して

児童・生徒に対する「健康に気をつけて生活をする」ことへの意識を高める活動については、長期休業あけに1回強調週間を設け、「生活リズムチェック」を実施しながら、起床及び就寝時間、朝食の摂取等を自己点検し、自らの生活を見直す機会をつくってきた。特に、「手洗い、うがいなどがきちんとできた」の項目では、小学校94.2%、中学校87.5%と高い数値となっており、「生活リズムチェック」が清潔な生活習慣を身につけることにつながっていると思われる。「生活リズムチェック」の結果は、毎月発行している「保健だより」などに掲載し、児童・生徒ばかりでなく家庭に向けても健康に対する関心を高める努力を行っている。生活リズムチェックの実施に伴う健康週間の設定は、児童・生徒に対して正しい生活リズムを確立することの大切さを啓発することにつながったと思われる。

また、年間を通して、中学校では生活委員が「生活点検」を、小学校では健康委員会が「清潔検査」を毎週1回実施し、ハンカチ・ティッシュの携帯や爪の伸びについて点検や検査をしてきた。そして、点検や検査の結果を掲示したり、学年集会や児童朝会時、各学級において全体や個々に対する指導及び支援をしたりしてきた。

さらに、今年度は小中が連携し、学校保健委員会の取り組みの一環として、「体をやわらかくしよう」をテーマとして【イマミヤ体操（体ほぐしへん）】を制作し、学校全体に啓発をした。イマミヤ体操を作る際には、中学校の体育科にも協力してもらい制作した。各ポイントとなる部分を職員室と保健室前に掲示をして意識付けも行った。

次年度への改善点

取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】

今後も、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする手立てとして、一人一台学習者用端末やワークシートの活用をより積極的に行い、話し合いの形態についてさらに工夫していく。

中学生チャレンジテストの対策として、文章を読み取る力、意見をまとめる力の強化、語彙力を鍛えて文章表現力を向上させることに重点的に取り組んでいく。

取組内容②【5 健やかな体の育成】

(1) 日々の体育の授業における指導の工夫と充実

- ・児童生徒の目線にたって教材研究を行い、学びが深まる教具の工夫をする。
- ・運動を取り入れた行事の活性化。
- ・系統建てた学習計画を考える。

(2) 強調週間等を活用し、日々の生活を振り返りながら健康の保持増進について考える場を継続して設ける。

(3) 学校行事や通常の授業などにおいて、児童及び生徒健康増進や体力向上に向けた小中の連携の仕方や効果的な手立てについて実践を進める。

(4) 引き続き小中合同の学校保健委員会での取り組みを広げる。

いまみや小中一貫校 大阪市立新今宮小学校・大阪市立今宮中学校
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。 (令和6年度 小学校0.6% 中学校2.3% ※委員会が3月に出す資料より)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務が1か月45時間を超えない)を満たす教職員の割合を小学校80%、中学校44%以上とする。 (令和6年度 小学校79%、中学校43%)</p> <p>○令和7年度の保護者アンケート「学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上とする。 (令和6年度 94.4%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>毎日の教育活動で電子黒板やタブレット等、ICTを活用し、自分の考えをまとめ、説明できる力を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日における学習者用端末の活用状況(月平均)が令和6年度を超えるようにする。 令和7年度の児童生徒アンケート「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える割合を小学校32%、中学校28%以上とする。 (令和6年度 小学校31.8% 中学校27.8%) 年間計画を作成し、教職員対象のICTや情報モラルの実践研修会を開催する。 	A
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日や学校閉庁日の設定、校務負担の均等化や仕事の効率化の推進、プレイヤーファーストの徹底等により、教職員の長時間勤務減少に取り組む。 <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務が1か月45時間を超えない)を満たす教職員の割合を小学校80%、中学校44%以上とする。 (令和6年度 小学校79.2%、中学校43.3%) 	B

<p>取組内容③【9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの発信、学級だより・学年だより・学校だより等を積極的に発行し、学校からの情報発信に努める。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の保護者アンケート「学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を95%以上とする。 (令和6年度 94.4%) 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>令和7年度の児童生徒アンケートにおける「日々の授業の中で、ほぼ毎日学習者用端末を活用して学習している」の項目に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合は、小学校24.6%、中学校41.5%であった。学習者用端末活用状況においては、11月の月平均が小学校73.5%（昨年度43.9%）、中学校73.7%（同39%）と、大きく昨年度を上回った。活用状況の結果より、児童生徒の学習者用端末活用が定着してきていることが伺える。また、本年度は小学校では学習者用端末の持ち帰りとオンライン学習、中学校では長期休業中の端末の活用も行った。小学校ではICT活用の年間計画も策定できている。</p> <p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆとりの日を週1日設定した。学校閉庁日を夏季休業中に4日、冬季休業中に3日設定した。昨年度より夏季・冬季休業中ともに1日増加することができた。 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1（時間外勤務が1か月45時間を超えない）を満たす教職員の割合は、12月末現在で小学校82.8%、中学校36.7%であった。昨年度同時期より小学校は3.6%改善しているが、中学校では6.6%悪化している。また、教職員の月時間外勤務実績についても、前年度の同時期より小学校では減少し、中学校では増加している。 <p>取組内容③【9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の保護者アンケート「学校は、教育方針や学校の様子をわかりやすく伝えている」に対して、肯定的に回答する保護者の割合は95.9%であった。また、紙媒体、ホームページ、ミマモルメでの情報発信をすることができ、新今宮だよりについては、ミマモルメでの配信も行った。 学校ホームページのアクセス数は、学校ホームページのシステムの更新に伴い、4月から11月下旬までのアクセス数が確認できなくなり、今年度の総アクセス数の集計ができない状態である。 投稿数は、1月27日現在で988件（昨年度2月3日現在で980件）に達している。紙面でも校長室より、学級だより、学年だより、学校だよりや保健だよりや食育つうしん、給食だより、栄養だより、国際クラブ活動だより等で情報発信もしており、1月末現在総数201部発行している。また、昨年度に引き続き、小中共通の保健だよりを4号まで発行できた。 	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>今後は、ICTをどのように活用するのかを教員も研究し授業実践を進めることで、「自らの考えをまとめ、説明できる力」の育成に繋げていきたい。</p>	

取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

- ・次年度もゆとりの日を週1日設定し、学校閉庁日を夏季休業中に3日間設定する。
- ・教職員の月時間外勤務実績は昨年度より、小学校では減少し、中学校では増加している。来年度も改善に向けて継続して取り組む。

取組内容③【9 家庭・地域と連携・協働した教育の推進】

- ・保護者アンケートでの結果は達成することができた。高水準のため来年度も継続して学校での様子を発信していく。また、ホームページのアクセス数については、今年度はシステムの更新により、総アクセス数は不明ではあるが、令和6年度までは3年連続で40,000件を達成することができている。来年度、目標数値を上げていきたい。紙媒体では、今年度は、昨年度の159部より増加している。継続して、学校の様子を発信していきたい。